慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	数学の哲学セミナー
Sub Title	
Author	高橋, 優太(Takahashi, Yuta)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2011
Jtitle	活動報告書 Vol.5, (2011.) ,p.34- 34
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20120300-0034

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

数学の哲学セミナー

7

開催日　2011年９月16日
企　画　高橋優太（哲学・文化人類学班）
講演者　金子洋之（専修大学）
　　高橋優太（慶應義塾大学）

2011年９月16日に、数学の哲学セミナーとして、専修大学教授である金子洋之教授をお招きし「『演繹の正当化』とその周辺」というタイトルで講演していただいた。また、慶應義塾大学大学院博士課程在籍中の高橋も、「フレーゲとヒルベルト的形式主義」というタイトルで講演をした。

金子教授は、数学基礎論における「直観主義」の哲学的基礎に関する研究を近年の研究主題とされている。本講演では、これまでの研究成果を背景に、数学の哲学における伝統的問題と言える「演繹の正当化」の問題が検討された。金子教授の考察は、M. ダメットが導入した概念である「カノニカルな証明／カノニカルでない証明」を手がかりとしながらも、独創的で示唆に富むものであり、活発な議論が交わされた。高橋は、フレーゲが「無矛盾性」の概念をどうとらえていたかについての検討を手がかりに、フレーゲの立場と形式主義との関係を再考した。

表現を変えれば、特に金子教授の講演は、「論理」のもつ演繹的側面とわれわれの「認識」の間の謎めいた関係を明らかにしようとするものであり、本研究センターの趣旨に沿った有益なセミナーが開催されたと言える。（高橋優太）

On September 16th, 2011, Professor Hiroshi Kaneko and Graduate Student Yuta Takahashi gave lectures on philosophy of mathematics. We had fruitful discussions about the relationship between logical and cognitive aspects of mathematics.